

宮崎県社会教育委員連絡協議会 会報 [第9号]

平成22年9月発行

社会教育委員の皆様へ

会長 松本 睦子



深い伝統ある歴史、風土、温かい人情を大地に刻みながら歩み発展してきた宮崎県に口蹄疫という大きな問題が発生し、県民一体となって取り組み、ここに終息宣言を迎えたことは誠に嬉しいことです。

一方、親の虐待による子どもの死亡事件をはじめ悲惨なニュースばかりで心痛む毎日であります。今こそ、学校・家庭・地域が一体となって教育環境を整えることが全ての県民の願いであり、また責任であると考えております。

昔から「向こう三軒両隣」という言葉があるように、人と人が支え合い、助け合い、教え合う相互教育を推進していく必要があります。その一つの具体策として県社会教育委員会では、子どもを中心とした学校・家庭・地域が一体となつての教育環境づくりについての話し合いを進めているところです。特に、地域に在する企業や関係団体の力を結束しての教育力の向上に視点を当てているところです。



少子化、高齢化、急激に変化する社会において、まさに「支え合い」の輪を広げていくには、大人一人一人が小さな紐帯から大きなネットワークをつくり、みんなの力で「子どもが心身ともに健やかに育つ場」を用意する必要があると考えます。

私たち社会教育委員一人一人が、仕組みづくりの推進者として全力投球していくことこそ私たちに課せられた責務であると思います。

各地区総会等の報告及び主な年間行事

(各地区代表より)



【宮崎地区】

宮崎地区会長 池田 昭

宮崎地区は、従来1市6町による委員(48名)であったが、大合併により1市2町(30名)の構成となり、その取組や研修会の内容、役員においてその在り方の必要性が問われ、2回の理事会(2月と6月・理事と担当者)を持って共通理解をし、本年度の発足(口蹄疫などによって8月24日)をみたところである。

まず、全体のスローガンとして「住民の幸せづくり」を柱に主題として「住みよい地域づくり(人づくり)を求める社会教育を目指して「3者の連携と協力による子どもを育てる」取組である。

このことは、今回の教育基本法の13条の提言にもあるように、社会や地域全体での子育てと同時に、子どもや大人の「生きる力」をもとめ、最終的にはお互いに地域を愛

し、地域に学び、地域とともに生きる喜びをもって、地域づくりをしていこうとする発想である。

1 総会

- (1) 平成21年度の事業実績の報告、決算報告
- (2) 平成22年度の事業計画案、予算案、役員選出

2 講演

- (1) 講師 フリーアナウンサー 脇谷のり子 氏
演題 学校と地域のつながり
(絆やわたしたちにできること)



3 主な年間計画 (地区のみ)

- 11月26日 研究テーマ発表会 2月25日理事会
- 10月 (全国大会、九州大会参加)

【南那珂地区】

県南 (南那珂) 地区会長 中島 淳祐

《総会・第1回研修会》 8月26日 (木) 13:30~16:20 小村記念館

研修会 講話 演題「海にひらく古代日向」

講師 宮崎県埋蔵文化財センター副所長 北郷 泰道 氏

(講話要旨)

宮崎県は前方後円墳が多く見られることから、当時の天皇 (大王) の密接な関係があった。このことは、当時の天皇家が大陸との貿易を行う上での中継地点であったと考えられる。とりわけ、串間市で大変貴重な玉壁 (ぎょくへき) が発見されたことを考えると、本地区は重要な役割を担った地域であったということが言える。

総会

口蹄疫の発生のため、例年に比べて活動のスタートが遅れたが、会則改正や新役員、予算案などの議事が全て全会一致で承認され、今後の活動の展望が開けた。本年度も努力事項として、県教育委員会の事業である「学校支援地域本部事業」や「放課後子ども教室推進事業」等の推進に協力していくことが決まった。

《主な年間行事》

- ・ 10月 第2回理事会・会報発行委員会
- ・ 12月 研修視察
- ・ 1月 第2回研修会
- ・ 1月 会報発行委員会
- ・ 2月 第3回理事会



【北諸県地区】

都城市社会教育委員 川島 博章

北諸県地区は都城市と三股町の社会教育委員で構成されています。地区の総会等はありませんが、昨年度は9月に都城市総合文化ホールであった、都城市PTA連絡協議会、北諸県教育事務所及び三股町PTA協議会共催の北諸県地区「みやざき子ども教育週間」推進大会に参加しました。

都城市、三股町とも社会教育委員は公民館運営審議会委員を兼ねており、本年度は、都城市は委員14名(うち女性5名)で10月に会議を開催予定、三股町は委員6名(うち女性1名)で6月に会議を開催したところです。口蹄疫の影響で例年より予定が大幅に遅れている状況です。



【西諸県地区】

小林市社会教育委員 西 誠



西諸県地区社会教育委員連絡協議会の総会は、平成22年8月2日(月)にえびの市文化センターで行った。

3市町の委員19名が参加し、本年度の活動方針や研究主題、事業計画等について話し合い、「生涯学習の視点に立った豊かな地域づくり」を研究主題として活動することが承認された。事業については、口蹄疫の関係で、各市町の行事が秋以降に集中することが予想されたため、これまで秋に実施していた研修視察を取りやめ、講演会及び実践発表を充実させることとなった。

総会後の研修会では、各市町に分かれて研究主題に基づいた活動の在り方について協議を行った。各市町とも、活発に意見交換が行われ、「青少年健全育成に向けた啓発活動の推進」「ボランティア活動の推進」「教育プランへの提言に向けた活動の推進」など具体的な活動計画が発表された。

《主な年間行事》

平成22年 8月 第1回研修会・総会～事業報告、役員改選、事業計画、市町別協議
平成23年 1月 第2回研修会 ～講演、実践発表

【西都・児湯地区】

高鍋町社会教育委員 荻原 晴朗

東児湯地区を中心に発生した口蹄疫問題も8月27日の知事の記者会見で「終息宣言」が発表されました。この期間、6月に予定していた地区の総会並びに研修会も中止となり、通常の協議会を開くことが出来ず事務局の皆さんのご苦勞により、持ち廻り審議・決裁、資料の回覧などにより事が進められた次第であります。したがって今後は、早めに地区の理事会を開催し、年間行事の後半に予定されている研修会等について協議検討を考慮しているところであります。

近年、社会の変化に伴って、新しい時代に対応した個人や地域の形成に向けた生涯学習振興・社会教育の必要性・重要性が求められる中、平成20年の関係法規の一部改正にともなう社会教育委員制度のあり方や進め方にも少しずつ変化が見られるようになってきています。

社会教育委員会の会議が諮問を受け調査研究を行い「答申」等の形式で、教育行政機関に必要な応じ可能な範囲で、施策などの提言を行っている様子を耳にすることも多くなってきています。また、社会の変化に対応できる委員の職務のあり方や研修会等の進め方などについても新たな見直し検討などの必要性を感じます。このような意向を受けてか、8月の県社会教育委員連絡協議会総会後の研修会は参考になりました。出来れば県内の委員の皆さんは勿論のこと、社会教育関係団体の皆さん方にも学習の機会を設けて、活動の糧としていただきたいと思います。平成20年の社会教育法の一部改正で、(第3条)に掲げられた内容を見ると、社会教育による学校支援や協力が重要な特徴となっており、今年度の県の「生涯学習課の主要施策」としても掲げられています。今後は、社会教育が学校教育、家庭教育、地域住民、企業などと連携・協働しながら教育活動を推進していく上で、社会教育委員の役割を果していきたいものです。



【北部地区】

北部地区会長 柘植 健

旧東臼杵地区社教連は、6月9日に第1回三役会・理事会を開き、柘植会長・林副会長のもとスタートをきりました。この会にオブザーバーとして高千穂町を招き、今後の連携を確認しました。また、広域での活動を視野に入れ、本協議会の名称を「北部社会教育委員連絡協議会」に変更することを決定、さらに、翌々週に予定していた総会及び第1回研修会を中止とし、この理事会の総意をもって議案を承認しました。

朗報があります。九州大会で、高千穂町が県代表として発表されます。名前も変わり、北部から社会教育の風が吹いていることを実感し、大変活気づいているところです。「社会教育委員として、地域教育を推進しよう」の研究テーマの下、委員の研鑽と資質向上に努めていきます。

《主な年間行事》

- 6月9日 第1回三役会・理事会
- 6月22日 総会・第1回研修会(中止)
- 9月10日 第2回三役会・理事会
- 1月21日 第2回研修会
- 3月10日 第3回三役会・会計監査



(三役会・理事会)

【西臼杵地区】

高千穂町社会教育委員 佐藤 洋文

西臼杵地区は、五ヶ瀬町と日之影町の退会により現在、高千穂町のみ活動となっておりますが、毎年、2回の会議、研修会を行い本町の特性を生かした個性豊かな生涯学習の推進や、地域活動の強化を図るために地域住民、学校、家庭との連携協力等について協議を重ねながら、11月には、うるおいと・やすらぎ・いきがいのある町づくりをめざして「町民のつどい」を開催しました。

さらに、平成21年度より立ち上げた、地域で子どもを育てる【子育て応援「ゆい」高千穂事業 がまだせ若竹会議】では、生活リズム向上、読み聞かせ、夏休み・冬休み中の学習教室等を行い、地域のボランティア団体と連携を図りながら活動しており、特に昨年度は地区のPTA連絡協議会と合同で、「生活リズムを乱すメディアからの影響」・「今、大人が変わるとき」とのテーマで、2回の講演会を実施し毎回、200名程度の参加者があり、保護者や学校関係者の方に大変好評でした。

また、研修では、地元探訪を計画実施し「ふるさとの祈りを今に伝える社会教育活動」と称して、地元神社（荒立神社）の宮司に講話をお願いし、各地区に先祖代々伝承されながら、現在失われつつある、行事や仕切り、助け合いの精神、礼儀等の大切さについて、改めて認識することが出来ました。

これから、この研修会で学んだ事を社会教育活動に反映させ、生き甲斐のある町づくりを目指していきたいと思っています。



（参） 荒立神社について

猿田彦の命（サルタヒコノミコト）と天鈿女命（アマノウズメノミコト）の結婚が急だったので、荒木を利用し急いで建てられた新居が「荒立神社」です。

猿田彦の命は、夫婦和合、縁結びの神として有名で、全国各地より若い女性が参拝に訪れています。

天鈿女命は、芸事の上達にご利益があるということで、昔から著名な芸能人やスポーツ関係者が参拝する神社として有名です。



平成22年度宮崎県社会教育連絡協議会総会・研修会報告 (事務局)

平成22年8月11日（水）に、県理事、各市町村の代表の方が一堂に会し、県立図書館において総会及び研修会が実施されました。簡単に議事内容等の報告をいたします。

【総会議事内容】

- 第1号議案 平成21年度事業実績報告について
- 第2号議案 平成21年度決算及び監査報告について
- 第3号議案 宮崎県社会教育委員連絡協議会会則の変更について

(今年度、教育事務所が7から3になり、会則第7条に不都合が生じたための提案)

- 第4号議案 平成22年度活動方針及び事業計画案について
 - 第5号議案 平成22年度収支予算案について
 - 第6号議案 平成22年度役員改選案について
- 以上の議案で審議が行われましたが、議事内容については承認されましたことを報告いたします。



質問については、教育事務所の改編に伴い、地区社会教育委員連絡協議会はどのようになるのかといった趣旨の御質問がありましたが、本連絡協議会は、自主的な団体であり、各地区において協議し方向性を出していただきたいと事務局から回答させていただきました。

次年度の活動方針は、以下のように決定いたしました。活動方針をもとに今後の研修等に反映していただきたいと思っております。

【平成22年度活動方針】

平成20年2月の中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」では、国民が今後の社会の変化を生き抜いていく力（知識、技能、人間関係構築力等）を身に付けるためには、地域社会の教育力の向上が必要であること、そのために学校・家庭・地域が連携するためのしくみづくりが必要であることを述べている。

これらの実現のためには、社会教育行政に住民の意向を反映させるために置かれている社会教育委員への期待は、ますます大きくなっている。

本年は、各地区において、「学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくり」の在り方について協議するとともに、社会教育関係団体や各種機関、企業、行政等間のネットワークづくりの推進役として、生涯学習・社会教育の充実や豊かな地域づくりに寄与する。

最後に、竹林会長が、一身上の都合で、今回の総会をもって会長職を辞職されました。本県の社会教育の推進に御尽力いただき本当にありがとうございました。

後任に松本睦子県社会教育委員が会長として就任いたしました。

【研修会内容】

宮崎大学教育研究・地域連携センター准教授の高橋利行氏に、「社会教育の現状と課題」について、具体的な事例を示していただきながら講話をしていただきました。

- 社会教育委員は、まちづくりや地域での課題など現代的課題を解決するために行政に対して提言等を行うことが重要な役目である。そこで、課題を解決することができるようになるためにはどうすればいいのか。一つの有効な手段として、私たち社会教育委員が、問題解決技法を身につけるといふことがある。(参考文献：高橋誠「問題解決手法の知識」)
- 問題とは、「期待と現状の差」と定義され、この差をなくし、期待を実現したら、問題を解決したことになる。
- 問題解決のための思考法には、発散思考（問題に対し多種多様な解決案を生み出す思考）と収束思考（解決策へとまとめていく思考）があり、発散思考の時は発散思考

のみ、収束の時は収束思考のみと使い分けることが大切である。

・ 発散思考の5つのルールは次のとおりである。

- ① 判断禁止（良い悪いの判断をしない）
- ② 自由奔放（何を考えても許される）
- ③ 大量発想（とにかくアイデアを大量に出す）マシンガンのようにアイデアを出していく。そうすることで、量ではなく質の高いものが生まれてくる。
- ④ 多角発想（広い角度から発想する）
- ⑤ 結合発展（アイデアを組み合わせる）



- とにかく柔軟な発想を身につけることが大切である。
- 問題解決のためのステップは次のとおりである。
 - ① 期待を明らかにする
 - ② 現状を明らかにする。
 - ③ 期待と現状の間には、どのような差（問題）が存在するかを考える。問題を的確に把握することが非常に重要である。
 - ④ その差を埋めるためにはどのような方法（問題解決策）があるかを考える。
- みなさんがこれから取り組むことが求められる課題として、例えば、次のようなものが考えられる。
 - ① 「学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくり」をどのように進めたらよいか？（今年度の社会教育委員活動方針：共通の課題）
 - ② 「〇〇〇」のためにはどうしたらよいか？（各地区固有の課題）
- さて、どうしたらよいか？このまま考えてもなかなか有効な解決策というのは見付かりにくいはずである。それは、このままの課題を考えるのは、先の（前述）ステップで言えば、いきなり④として考えているからである。
- ここで、スムーズに解決策が思いつく人は、もともと問題解決技法が身につけていて、意識しなくても頭の中で各ステップをうまく発想できていると考えられる。また、みなさんのこれまでの活動の中でも、「これはうまくいった！」というような活動は、あとからそれを説明しようとした場合、先のステップを踏んで、きちんと説明がつくようになっているのではないだろうか。

（実習）

- ① 期待を明らかにする。（例：生涯学習・社会教育の充実や豊かな地域づくりに寄与するために、こんなことがしたいなあ、こんなだったらいいなあ、〇〇しなければならぬ。）
- ② 現状を明らかにする。（①に対して、現状はどうだろうか。）
- ③ 期待と現状の間には、どのような差（問題）が存在するかを考える。ここがしつかりつかめるようになれば、問題解決まであと一歩。
- ④ その差を埋めるためにはどのような方法（問題解決策）があるかを考える。

高橋先生の講話の一部を紹介しました。先生の専門である「生涯学習」の視点から、社会教育の現状と課題について分かりやすく私たちに伝えていただき、社会教育委員の役割・責務を再確認させていただきました。

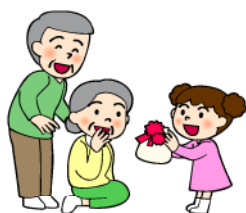
お話ししていただいたことを是非、地区・各市町村社会教育委員会議の中で活用していただければと思います。

社会教育関係情報

- 平成22年度社会教育委員連合会長表彰受賞者の決定
平成22年10月28日に全国社会教育研究大会（福島大会）開会式の席上で、北部地区会長の柘植 健 氏が表彰を受けられます。長年、社会教育委員として御活躍されての受賞です。おめでとうございます。
- 市町村社会教育委員の活動に関する調査（平成21年度）
先日、県内社会教育委員の活動について標記調査を実施しました。結果が出ましたのでお知らせいたします。 (市町村数)
 - ・ 社会教育委員が社会教育に関する諸計画の立案を行った。 . . . 2
 - ・ 教育委員会に対し答申・建議・提言を行った。 . . . 9
 - ・ 社会教育委員が上記の職務を行うために必要な研究調査を行った。 . . . 5
 - ・ 教育委員会の会議に出席して、社会教育に関する意見を述べた。 . . . 2
 - ・ 青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えるために市町村教育委員会が委嘱を行った。 . . . 5
 - ・ 市町村単位での社会教育委員研修会（当該市町村以外での現地研修は除く） . . . 5

～お知らせ～

- 今後の予定
 - ・ 平成22年度九州ブロック社会教育研究大会
10月14日（木）～15日（金）佐賀県佐賀市
 - ・ 平成22年度全国社会教育研究大会
10月27日（水）～29日（金）福島県郡山市
 - ・ 平成22年度宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館経営セミナー
12月 9日（木）13時～15時50分 宮崎市佐土原町文化センター
- 事務局への御意見、御要望等ありましたら下記まで御連絡ください。



事務局：宮崎県教育庁生涯学習課（担当書記：小嶋）
住 所：〒880-8502 宮崎市橘通東1丁目9番10号
TEL：0985-26-7245
FAX：0985-26-7342
E-mail：kojima-masafumi@pref.miyazaki.lg.jp

生涯学習、社会教育に関する情報は、県の生涯学習情報システム「みやざき学び応援ネット」でご覧いただけます。インターネットに、是非、アクセスしてください。

<http://sun.pref.miyazaki.lg.jp/>

みやざき学び応援ネット
新生涯学習総合情報提供システム